

串本町地域公共交通活性化協議会（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

○地域特性

串本町は、和歌山県南部に位置する本州最南端の町で、面積は 135.80 km²、東西延長が約 26km、南北延長が約 17km と東西に細長い地形です。

人口 14,959 人(令和 2 年国勢調査による)、高齢化率 47.0%(令和 2 年時点)で、平成 2 年以前から人口の減少・高齢化率の上昇が続いています。

串本駅周辺、町南部の潮岬半島の西側、古座駅周辺に人口と主要施設が集中し、観光地は潮岬や大島などに集中しています。

公共交通ネットワークは、鉄道による広域交通と、コミュニティバス及び乗合タクシー、民間タクシーによる地域内交通、その他に観光周遊バスや民間事業者による送迎バス等の観光交通から構成されています。

○計画の方針

- ・町民・来訪者の誰もが快適に利用できる公共交通ネットワークの構築
- ・日常生活や観光振興を支える持続可能な公共交通の確保

○計画の期間および目標

令和 6 年 6 月から令和 11 年 3 月までの 5 年間

- ・便利で快適な公共交通ネットワークを維持・確保する
- ・誰もが利用しやすい交通サービスを提供し、利用環境の向上を目指す
- ・町民・来訪者に向けて、公共交通の利用促進をはたらきかける
- ・将来に向けて持続可能な公共交通体系を確立する

○公共交通の将来像

日常生活と観光振興を支える利便性の高い地域公共交通を目指し、生活拠点と主要居住ゾーン、鉄道駅など交通結節点と観光拠点を連絡するとともに、相互に連携可能なネットワークを形成する。既存の公共交通ネットワークをベースに、今後の多様な輸送資源の連携も踏まえ、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成に努める。

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添参照

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

○公共交通網評価の基本的な考え方

評価指標の数値目標に対して、地域公共交通活性化協議会により PDCA サイクルを実行し、継続的にその経過・達成状況を確認するとともに、事業の実施や継続について議論を行い、必要に応じて計画を見直していく。

○評価指標及び評価基準

評価指標① コミュニティバス利用者数 100,000 人/年

評価指標② まぐトル号利用者数 2,500 人/年

評価指標③ JR 串本駅・古座駅利用者数 串本駅 390 人/日、古座駅 164 人/日

評価指標④ 人口カバー率 80.5%

評価指標⑤ コミュニティバス等の町の財政負担額 37 百万円

目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

○地域内の公共交通の概要、問題点

串本町は東西に細長い地形であり、串本駅周辺、町南部の半島の西側、古座駅周辺に人口と主要施設が集中しています。また、観光地は潮岬や大島などに集中しています。そのため、各地区から串本駅周辺などに至る東西方向の移動手段の確保、串本駅周辺から半島・紀伊大島に連絡する移動手段の確保が必要です。なお、海岸部から山地部に至る南北方向には谷筋が複数あり、公共交通での移動確保を行いにくい状況となっています。

○取り組みの実施に至る経緯

本町の公共交通機関は、県内を縦断する JR 紀勢本線が広域な地域の幹線系統として存在しており、主要駅に接続するフィーダー系統として、町内をコミュニティバス（町営）と、くしもと観光周遊バス（くしもと観光周遊バス推進協議会）が主に運行しています。コミュニティバスについては、平成 27 年 9 月まで民間事業者が運行していた路線バスに替わり、喫緊の課題であった交通空白地の解消、町の財政負担額の縮小を目的として、平成 27 年 10 月から運行を開始しました。

○取り組みの主な内容

コミュニティバスは民間事業者が運行していた 6 路線を 4 路線に変更し、串本町役場を起点として、くしもと町立病院と串本駅を經由し、毎日運行しています。地域公共交通確保維持事業では、公共交通の空白地であった佐部・上田原地区を新たに路線として加えた「佐部・上田原線」、試行運行時に開催した住民説明会において、沿線上のすべての地域の要望により増便した「大島線」及び「和深線」の 1 便を対象としています。

●串本町地域公共交通活性化協議会開催状況（すべて承認）

令和7年1月28日

- ・串本町コミュニティバス「大水崎」停留所の移設について
- ・地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価（案）について

令和7年6月26日

- ・令和6年度事業報告・決算報告
- ・令和7年度事業計画(案)・収支予算(案)について
- ・令和8年度串本町地域内フィーダー系統確保維持計画について

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域内フィーダー一系統補助事業	串本町	R6.10 ~ R7.9	フ	串本町役場を起点として、くしもと町立病院と串本駅を經由する3路線の路線バスのうち、佐部・上田原線で1日6.5往復、大島線で1日1往復、和深線で1日1往復を運行する事業。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
 利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
なし			

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
串本町コミュニティバス運行事業	串本町	R6.10~R7.9	串本町役場を起点として、くしもと町立病院と串本駅を經由する3路線の路線バスのうち、大島線で1日5往復、和深線で1日5往復、潮岬・出雲線で1日11便を運行する事業。

(1) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
地域内フィーダー系統補助事業及び串本町コミュニティバス運行事業	令和3年7月26日に意見交換会を通して住民の方から頂いた意見を反映した路線や時刻表に変更した。 また、高齢者の外出促進、負担軽減を図るために、令和6年4月1日以降、75歳以上の方のコミュニティバス利用料金を減額した。	利用者数の維持

3. 具体的取組に対する評価

○コミュニティバス利用人数

【全路線】107,352人/年（前年：101,888人/年 5.4%増）

【フィーダー対象】36,140人/年（前年：33,476人/年 8.0%増）

停留所別乗降人数では串本駅バス停の乗降人数が一番多く、駅までの交通手段や観光客等の二次交通として、大きな役割を担っていると考えられます。

また、住民との意見交換会で頂いた意見をもとに、それまで国道42号を通っていた路線を、町道を通る路線にしたことで国道42号から離れた地域も運行地域に加えることができ、利便性が大きく向上しています。

高齢者の外出促進・利便性向上のためにコミュニティバスの利用料金を令和6年4月から75歳以上半額としたことで、すべての路線において利用者数が増加傾向にあります。

一方で、人口減少が進み利用者数が少なくなることが予想されます。また、物価高騰の影響もあり、コミュニティバス運行に係る負担額が増加しており、今後、公共交通の維持が困難になることが予想されるため、利便性や効率性の向上に引き続き努めていく必要があります。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
<p>住民との意見交換会で頂いた意見をもとに、路線や時刻表等を変更して、利便性の向上に取り組みましたが、結果としてバスの運行費用が増加傾向にあるため、町の財政負担額を縮小して路線バスを運行するという当初の目的を考慮し、費用対効果等を検討したうえで、取組を進めていく必要がある。</p>	<p>コミュニティバス導入前の町の財政負担額(約 37 百万円)を目安として、費用対効果等を総合的に考え、持続可能な事業として継続できる費用負担額であることを条件として、町民等の要望に応えていく必要がある。</p>
<p>令和2年度に宝くじのコミュニティ助成事業や町民の方から頂いた寄付金を活用して、ノンステップバスを2台、令和3年度にハイエースを1台購入し、新車を導入しているが、現在も路線や予備車として運行しているマイクロバス4台については、平成27年9月に同時購入しており、買替時期が同時期になる懸念があるため、同一年度に財政負担が生じないように、運行を調整していく必要がある。</p>	<p>マイクロバスについては、令和6年度に1台新調した。令和7年度も1台新調し、今後も引き続き計画的に車両の更新を行う予定としている。</p>

串本町地域公共交通活性化協議会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>適切に事業を実施し、目標・効果が達成されており評価できる。</p> <p>今後も、利用者のニーズに即した運行ルートやダイヤ編成に取り組み利用者の増加、利便性向上を図り、持続可能な交通サービスの提供に努められたい。</p>	<p>コミュニティバスについては、警報発令時等を除いて、計画通りに運行した。</p> <p>令和6年4月に高齢者の利用料金を半額とした以降、利用者数は増加傾向にある。</p>	<p>多くの方が利用し、複数の公共交通が集まる串本駅周辺の交通結節点としての機能強化を検討する。</p> <p>また、町内の道路状況が変わりつつあるので、運行ルートやダイヤの見直しを検討する。</p>

2. アピールポイント、特に工夫した点など

コミュニティバスの導入に際して、住民説明会（意見交換会）を複数回開催。令和3年に役場庁舎が移転する際にも、意見交換会を開催し、頂いた意見をもとに、路線の変更やバス停の新設や移設、時刻表の変更を実施するなど、住民の意見を反映した交通体系の構築に努めている。